

For Adults Only

LAURel

Chapter:2



私の名はローレル・ブルーム。
ひと月前までは勇者だった、
三匹人間だ。
今は魔族として暮らしている。

魔族にはなったけど、
魔王アリアの気まぐれ(?)で、
心はまだ人間のまま。

人間の心のままで、
元勇者の魔族…
私の中で油と水の様な
複雑な関係が
繰り広げられている。

魔族になったものの、勇者だったときには
知らなかったことを色々教えてもらっている。
知れば知るほど、私がいかに無知だったかを
思い知らされる。
「ただ魔王を倒してめでたし、めでたし」
世間はそう単純ではなかった…

魔族の侵攻もなしに
なぜ火の手が?
あの集落には確か…

ちよつと前
魔王の間にて

えっ?
人間のところへ行くって?

魔王

アリア・フェイルゴッド

もう侵攻するの?
早くない??

侵攻じゃないわ。
勇者だった私と、今の私で
見えるものが変わった

今の私はローラだわ

…というか私が現実を
知らなさ過ぎとだと
思い知らされたの

なるほど
それで人間の
世界を見たい
わけね

うん。いいんじゃないかしら?
勉強熱心なのはいいことよ。
色々と見てくるといいわ。

今のローラは前より
とても強くなったし

遠くに行きすぎると
色々と面倒なことになりそうだから、
まずは地理感覚のある近場から
行ってみたらどうかしら?

ありがとうアリア!
ちよつと出かけてくるね

行つてらっしゃい
…あ、そうそう

もしも「何か」あったら
ローラの心のままに
行動しなさい。

こうして私は勇者のときに
最後に寄った集落の観察に
向かうことにした。

望遠魔法で見た集落では
その「何か」が起きていた

行くべきか、行かざるべきか

今の私は魔族。人間とは関わらない
ほうが絶対にいいのは分かっている。
分かっている。だけど…

人間の心が「助ける」と
私を煽る。

今の私は魔族…人間と関わ
れば、戦いは避けられない。
それは分かり切っている。

もしも「何か」
あったら…

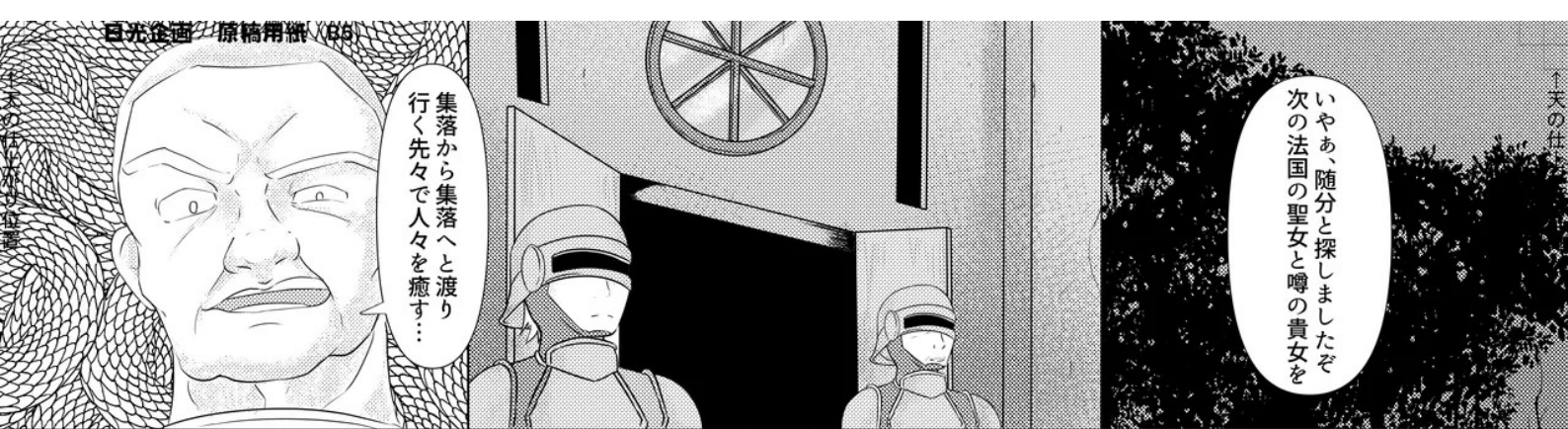
ローラの
「心のままに」
行動しなさい

そうだ…
アリアが言ってたじゃないか
何を悩む必要があるんだ

私が思うままに

ウー…

今の私は魔族なんだ
私の思うままに



集落から集落へと渡り
行く先々で人々を癒す...

いやあ、随分と探しましたぞ
次の法国の聖女と噂の貴女を



こんなことつ...
神が許すともっ

く...

是非貴女のその力で我々の国も、民も
救ってはくれませんか？
「聖眼の聖女ルシル」様？

ははははっ！
我々はいっ助けに来るかも分からぬ神より、
今ここにいる奇跡の力を持った貴女が必要なのですよ
我々にしてみれば貴女こそ神といえましょう

私の眼にその様な力はありません。
日々誰かの生きる力になれば
それで十分…

私を捕まえたところで
特別な力もない私は
役に立てませんよ

ははっ！ご謙遜を！
貴女の奇跡を受けた者たちは
皆口を揃えて言っていましたぞ？

聖女様の眼を見ると
力が込み上げてくると…

しかし
哀れですなあ！

貴女に力を貰った者たちが、
己の目の前の欲望のために
貴女の情報を売ったのです！
貴女は裏切られたのですよ！

わはははは

…っ！
!?

どういふことですか！
そんなはずが…
そんなことあるはずが…！

ええ、ええ。
認めたくないお気持ちはよく分かります。
しかし、この集落の長が貴女を売ったのは事実。
情報料と、法国侵略の際にこの集落を見逃すという
条件を出したところ、嬉々として貴女が訪れる日を
我々に教えてくれましたねえ。

全く度し難し連中ですなあ！
せっかく貴女に救われたというのにっ！
しかし安心してください。我々が裏切られた
貴女を「癒やして」上げましょうぞ！

この「開放の淫核」でっ！

いかがですか？
「私の」贈り物は？

そいつは人間の…それも人間の雌の子宮に寄生する
お前の身体の隅々に根を張るように分散して、
細胞の一つ一つと同化して、お前を人間という器から
文字通り「開放」するのだ。「開放」されたお前は私の…

んく…

んく…

ジュ
ジュ
ジュ

ジュ
ジュ
ジュ

何っ!?

敵襲か!?
直ちに兵を集結させて原因をつ…

なあっ!?

司令!! 大変です!!
施設周辺の兵が次々と倒れて…

があああああ

やあ。
随分とお楽しみじゃないか
私も混ぜてくれないかな？

こいつは私の獲物だ！
貴様なんぞにくれてやるものかっ!!
邪魔だてはさせんぞ!!

魔族っ!?

ええいつ!こんな時に!

ちっ

うわ:
こいつ寄生生物か:
嫌なんだよなあ:

あーと:
こいつは寄生を終えた個体:
普通に倒せばいいか

余裕ぶっついていられるのもここまでだ!
貴様もその聖女と同じ運命を辿らせてやる!!

くたばれえっ!!







もう戻れないですね…
でしたら、私を…

私を召し上がってくれませんか？

魔族は人間の魂を食べると聞きました。
なら、せめて私が人間であるうちに、
人間らしく最期を迎えさせてほしいのです！
「聖の力もない」私なら良い栄養になるでしょう



何を言ってる…

それに、その眼は…
魔眼じゃないか…

はい。この眼は生まれつきで
私は人間と魔族のハーフ…

この眼を持ってしまった
事で、周囲から恐れられ

そんなある日、法国の
修道士様に拾って頂いて、
修道士様の提案で眼を隠し、
色々と学ばせて頂きました

魔力を応用した
回復方法とか…

だからせめて
最期は誰かの
役に立つて…

ルチル

君は、人間に裏切られて
この様な最期に納得
できるのかい？

ふえ…？

もう一度
聞くよ？

こんな結末に納得
できるのか？
何もできないまま
終わるのかい？

納得できるわけ
ないでしょ！

ずっと頑張っ
てきたのになん
だ皆酷いことをするの！？

そうだよねっ！
悔しくて当たり前だ！

君はよく頑張った
もういいんだ

私と共に来ないか？
もう独りで苦しみ抱える
ことなんてしなくていいんだ

これは悪魔の囁き…そんなこと
分かっている…

だけど…このままだったとして、
私は変わらず人と関われるだろうか
この眼と、寄生されたこの身体で…

ローレルさん…
ついて行っても
いいですか…？

無理ね…人間を
信じるなんて

ああ…歓迎するよ。

頑張った君へのご褒美だよ。
寄生した物を取り除けないけど、
こいつは魔導生物。私の魔力を
与えて命令を書き換えてやると…



言ってしまった…
でも、後ろめたさはない

ひうっ!?

身体の殆どが寄生体に置き
換わって敏感になっているんだ。
さあ、次の工程だよ。

こいつで君に直接
魔力を流し込むんだ

むしろ、ひとつひとつのピースが
埋まるように何かが繋がっていく



「頑張ったね」ずっと欲しかった言葉…
ずっとやって当たり前だった私には、
あまりにも猛毒であまりにも甘美で…

触手のままだと
痛だから、素敵な淫魔に
作り替えてあげる

これえっ
きもちいい♡

あ♡

ローレルさんから与えられる快楽は、
私の知らない私を身体と脳を駆け巡ると同時に、
ローレルさんが魔族になった経緯を理解した。

↑天の仕上がり位置

↑正方形本での天の仕上がり位置



ホゴッ

あゝだめ♡
イっちゃっ♡

さあ、人間として最初で最後の
絶頂を迎えながら変わっちゃえ♡

イ
っ
ち
ゃ
え
♡

あゝあゝあゝ♡

フッ♡
トッ♡

頑張ったご褒美がいっぱい♡
あっ♡

はあ...はあ...
ローレルさんの私の膣内にい♡
あっ♡

ゴボッ♡

ああ、終わっちゃうのね

君が我慢してきた分だけ、君が頑張った分だけ、
君が纏うその力は答えてくれる

とても心地が良い…

ルチル。
君がなりたかったものはなんだい？
君が憧れたものはなんだい？

身体感覚が戻ってきた

新しい私…

元々持っていた君の力と、私の力が混ざり合って、
新しい君を作り上げてくれる。その力は、君の夢を叶えてくれる。
さあ思い描くんだ。自分がなりたかった自分を。自分の夢を。

前よりも敏感で
前よりもはつきりと
前よりも心地よく…

さようなら
人間の私

ああ…とても素敵な姿じゃないか

それが君の夢だったんだね
ルチル。

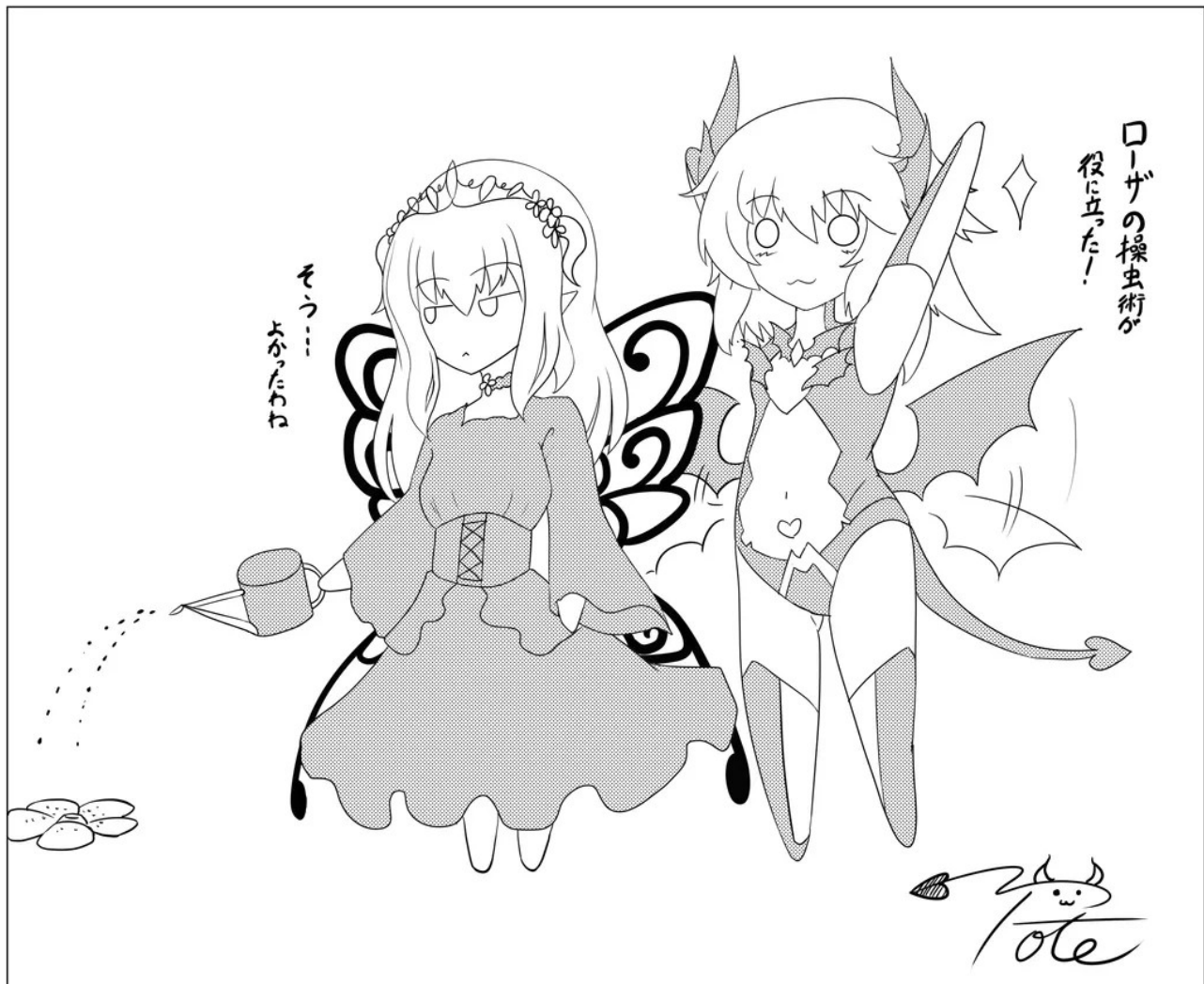
はい、ずっと遠く
ずっと憧れていた姿…

私、ローレルさんと
繋がったときに分かったんです。

私やローレルさんの様に、裏切られて苦痛に悶える人間たちを
この手で救いたいと…この力なら、今の私ならそれを成せると。
目には見えず、いつ助けに来るか、本当に助けに来るか分からない
存在を待つより、私が神となって、苦しむ民たちを救いたいと…

ローレルさん。
早速、彼らに「怨返し」に
行きませんか？ふふふ…

続



奥 付

タイトル：LAURel2

発行日：2023年8月13日

イベント名：コミックマーケット102

執筆者・原作：葛葉ぽて

ロザリシアデザイン：あかこ様

(Twitter:@akk0410_cos)

サークル名：墮落商会

印刷会社：株式会社日光企画 様

Twitter：@kuzunoha_pote

PIXIV:2567103

mail:pote.pote.wahu.wahu@gmail.com



墮落商會